

2021年7月1日



月刊

もぐら通信

2023年12月1日 第133号 初版

<http://abekobosplace.blogspot.jp>

あなたへ：
迷う事のない迷路を通して
あなただけの番地に届きます

もぐら通信を自由にあなたの「友達」に配付して下さい



安部公房の広場 | www.abekobosplace.blogspot.jp | 問合せ：takranke2003@yahoo.co.jp



『S・カルマ氏の犯罪』の最後に登場する
非ユークリッド空間を映写する映写機

目次

- 1 目次…page 2
- 2 記録&ニュース&掲示板page 3
- 3 巻頭詩（19）二十億光年の孤独：谷川俊太郎……page 17
- 4 周辺飛行（43）：3。『周辺飛行』について（21）：周辺飛行41：五月のスタジオ公演：岩田英哉…page 18
- 5 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（13）：安部公房の塔と倉橋由美子の塔（3）：4。倉橋由美子の小説観『反小説論』：岩田英哉……page 30
- 6 糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/
 - 1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号：岩田英哉…page 35
- 7 ネット・モナド論（18）：ネット大衆と情報の真贋：岩田英哉…page 36
- 8 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（16）：5.16.4 八の音義は何を意味するか（4）：K 親鸞聖人の超越論：待て次号：岩田英哉…page 42
- 9 Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界シリーズ（12）：扇：岩田英哉…page 44
- 10 編集後記…page 45
- 11 編集方針……page 46

The Best Tweets of the Month

Golden Mole
Prize

k②@seIso9ri・Jun 29

理系が文系(私)を見下すとき文系(私)も理系を見下してるからな
こっちは最小公倍数わかんないけど安部公房読んでるから

Silver Mole
Prize

実@saygetyou・Jun 29

安部公房のせいで「健気」とか「いたいけ」なんつう言葉を使うときにいつしゅんヒヤッとするくせがついてしまってる…「可愛い」もあやうい

The worst tweets of the month

☆♡♪@Ged0_Ger0・Jun 28

安部公房のこと全然しらんけどペンネームから
むっつりスケベ感を感じざるを得ない



むにゃ枕@Munya_Pillow・Jun 24

安部公房とか遠藤周作も家にあるから読んだはずなのに全く覚えてない……

今月の誘惑者

いなかのひと@喜読哀楽@tosyokandaisuki・8h

アイコン変えました

いなかのひとより

誘惑者

#安部公房

二人の男の謎の駆引き

ん？大男さん、も少し、しゃんと喋って～

さあ何が起こる。すごい引力。最後の最後まで、じらされたお話でした。

公房って読者を弄ぶマジシャンですね。TLでファンの方の熱を感じるのですが、納得。砂の女読も



今月の笑う月

まめ@mame42424242・Jun 29

『笑う月』安部公房 #読了

子供のころより今のほうが、夢を見る頻度が高い。酒量の増加とそれによる睡眠の浅さが関係しているのかもしれない。夢を見るのは好きである。現実の合間に夢を見るよりもむしろ、夢の合間に現実を生きるくらいの塩梅が良い。私は、夢の中で、いつもそれが夢だと気づく。



今月の寺山修司

ヤマニシ@bkbkbook29・Jun 25

堀江秀史『寺山修司の一九六〇年代 不可分の精神』読了。

寺山修司もすごいし、堀江秀史もすごい。膨大な資料を収集&駆使して対象に迫る姿勢には頭が下がる。これぞ研究の真髄。寺山がピンチョンを読んだことと、あまりにも安部公房と(モチーフやスタイルが)似ていることに驚いた。

今月の絶望

うたうたいbot@hirari_ktnh・Jun 30

……人間にとって、いちばんの毒は、希望と絶望の化合物なんだ。希望に近づけば絶望が深まり、絶望から逃れようとすれば、希望も消え去る。並の毒と違って、死ぬことも出来ないんだ。

『愛の眼鏡は色ガラス/安部公房』

今月のマスク (他人の顔)

参加型名文bot@LovelyQuoteBot・Jun 28

うまく言い表すことは出来ないが、覆面は他人との関係を、素顔のとき以上に普遍的なものに高めてくれるのではあるまいか。

from 安部公房, 他人の顔

ジオ@konparo2015・Jun 29

【他人の顔 (新潮文庫)/安部 公房】正直なところ、よくわからなかった。ネットの解説を読んで初めてそういうことだったのねとなることが多かった。それはさておき、阿部公房を読む度に思うことは、記号性… → <https://bookmeter.com/reviews/99359864>… #bookmeter

今月の砂の女

どんの本棚@don_bookshelf・Jun 23

砂の女/安部公房 #読了

砂漠の中に佇む部落、蟻地獄のような家に囚われた男とそこに住む女。男は自由を求めて砂の牢獄からの逃亡を図る。比喩表現が多く、文章から伝わる湿気と渇きで息が詰まりそうになる。残るのはじっとりとした熱気のような読後感。小説ではなく文学作品と呼びたくなる一冊。

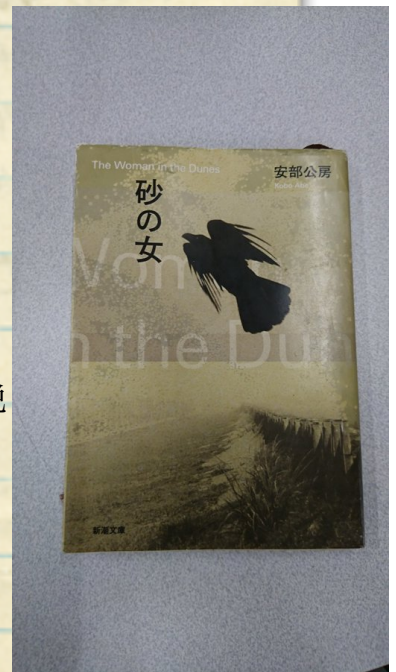
産経ニュースWEST@SankeiNews_WEST・Jun 29

【ビブリオエッセー】妥協によって見えた灯火 「砂の女」
安部公房 (新潮文庫)

[https://www.sankei.com/article/](https://www.sankei.com/article/20210629-276PLCVZB5NYDPD6PP3JK7WWHY/)

[20210629-276PLCVZB5NYDPD6PP3JK7WWHY/](https://www.sankei.com/article/20210629-276PLCVZB5NYDPD6PP3JK7WWHY/)

「人間は極限状態に陥るまで、自らの本性にはなかなか気づかないものようだ。抑制された生活を描いた『砂の女』は人間の負の部分を克明に描いている。安部公房が死去したとき速報が流れた。高校時代のことで、よく覚えている。初めて知る名前だった。以来、頭の隅には残っていたが最近になってこの世界的名作を映画で見ると衝撃を受けた。その映像と難解な世界が頭から離れず、原作を手にとった。学校教師の男は砂地にすむ昆虫を採集するため、ある駅を降りた。(略)」



もぐら通信

島鷗そりね@neusimau・Jun 29

安部公房の砂の女を読んだのですが石鹸で女の人の身体洗うシーンがめっちゃえっちでした

法水@norimizu・Jun 28

【砂の女/安部公房】勅使河原宏監督による映画版を観た復習とケムリ研究室での舞台版の予習として、二十数年ぶりに再読（なので旧版で登録）。現実にはちょっとありえないような設定ながら、ぐいぐい読ませる… →

<https://bookmeter.com/reviews/99343340>… #bookmeter

今月の養老孟司

いしりに@ishirini888・Jun 30

あと見よ。

安部公房「文明のキーワード」聞き手：養老孟司（1987年） <https://youtu.be/ZboCo6bk88k>@YouTubeより



今月の箱男

むーぽん@muupon194pom・Jun 29

『箱男』 / 安部公房

見る行為を覗く行為に変換することで生まれる別世界。

そこは、干渉を逃がれ、己の存在を消しさる独善的ユートピアとなり得るのか。

"無存在という存在"に焦点を当てた不条理な世界観は、固定観念を執拗に揺さぶってくる。

#読了

#本好き

#読書好きと繋がりたい

もぐら通信

川中 りく@rikky615.1h

箱男 安部公房

・バンドメンバーに勧められて読んだ一冊

改めて読んでみました。

.安倍公房さんの文章は現実離れしているのに自分のことに置き換えられるような、明らかなフィクションなのに本質は誰もが体験するような内容であるかのような

そんな不思議な文章が魅力です。

社会学・哲学・文学等私的名言bot@siteki_meigen・Jun 26

だからいつも世界は

一周進みすぎている

彼が見ているつもりになっているのは

まだ始まってもない世界

幻の時

針は文字盤に垂直に立ち

開幕のベルも聞かずに

劇は終わった

—安部公房『箱男』

シロビ(空想生物)@siirobi・Jun 30

ナイス 【箱男 (新潮文庫)/安部 公房】 読んでいる間に一貫して思っていたのは、境目がはっきりしないということ。箱は、内と外を隔てているようだけれど、自分なのか贗箱男なのか、箱が服なのか皮膚なの… → <https://bookmeter.com/reviews/99350237>… #bookmeter

今月の餃子

岩浪れんじ 3巻発売中Anatomical heart@

iwanamirenji・Jun 30

あと安部 公房のWikipediaの画像もめっちゃ

可愛いのでみんな見てください。私も偉くなって

著者近影とるならあんな感じがいい



もぐら通信

塩っちえ@Bmgr3o5hIhPQWQO・23h

ホントだ！

餃子作ってるw 可愛いわー

今月の人間そっくり

本ノ猪@honnoinosisi555・Jun 28

「よく、現代は、人を信じられない時代だなんて言いますね。でも、ぼくは反対なんだ。人を信じるのは、容易だけど、人に信じさせるのは、もっとはるかに困難です。」（安部公房『人間そっくり』新潮文庫、P113）

本ノ猪@honnoinosisi555・Jun 28

「誰もが、自分の尺度一本で、相手かまわず割り切ってしまうとする。他人のためには、他人の尺度を用意するという、当然の心づかいが、いまでは古本屋の隅でカビを生やしている有様だ。」（安部公房『人間そっくり』新潮文庫、P113）

今月の公然の秘密

藤@not_mount_fuji・Jun 24

前橋市の川に3年前くらいから鹿が出没してるらしいんだけど、みんなが「なんとかしてほしい」とは言いながらもずっと傍観していて、完全に安部公房の『公然の秘密』だった。

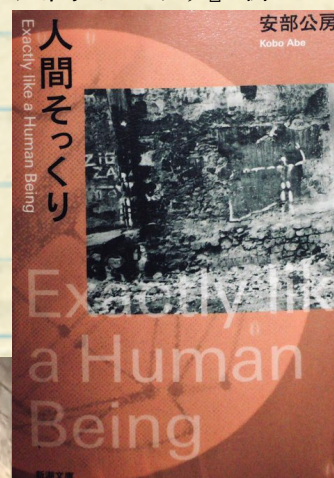
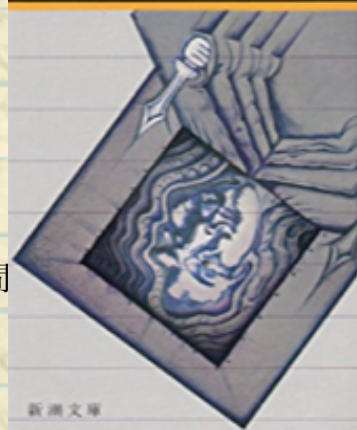


今月の石の眼

音隅 管譜@otonezumi・Jun 26

いま彼女の心は、傷ついた父のために用意した、レモンの皮のようなやさしさでいっぱいなのだ 『石の眼』安部公房

人間そっくり 安部公房



今月の筒井康隆

おかむら@okm_8moon・Jun 24

そういえば最近筒井康隆に触れることが多かったけど、tb先生が上級者向けの講義でそこに安部公房を接続するといった内容があったな…

今月の砂漠の思想

頼木@Yoriki404・Jun 23

今日もドトールです。ミラノサンドC。積ん読安部公房作品を消化中。

#よりごはん



今月の井伏鱒二

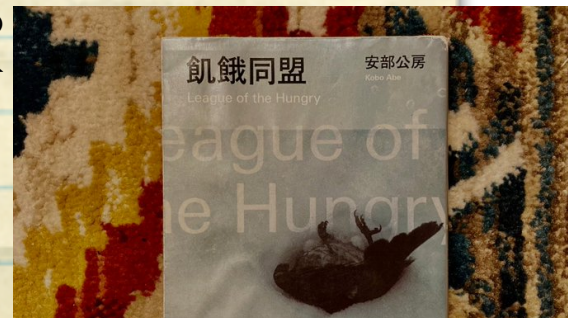
メメント@memento_ekimemo・Jun 23

間違いまくってますが、井伏鱒二の山椒魚は大好きです 梶井の檸檬や安部公房の赤い繭に匹敵するくらいには

今月の不思議の国のアリス

一之木 歩@Ichinoki_Ayumu・Jun 29

不思議の国のアリスの世界観とか、安部公房の砂の女の世界観が大好きだし、っていうかその世界が一番落ち着く



今月の飢餓同盟

きょんきょん@読書垢@kyoko_dokusyo・Jun 27

『飢餓同盟』安部公房 #読了

既得権益まみれの閉塞感漂う地方小都市で、権力を夢見て革命を目論むはぐれ達。革命というより、復讐か。弱者は光を求めてもがき、もがいた末に溺れ死ぬ、弱者は強者に搾取されるために存在する、そんな救いようのない不条理を滑稽に描いた寓話。面白かったです。

もぐら通信

今月のヘンリー・ミラー

ヘンリー・ミラーbot@henrymiller_b・Jun 24

安部公房「清掃車に、こうプレスしてき、ゴミを積んでいく車があるじゃない……あんな感じがする。するんだけど、彼(ヘンリー・ミラー)はその行為に対してほとんど信頼を寄せてない気がする。不信が(言語で世界を埋める)手を休ませない」

今月の燃えつきた地図

yuka@utau_warau・Jun 29

『燃えつきた地図』

著: 安部公房

読了～

はあああああ！面白い。安部公房面白いな～おい～。

なんかストーリーは全然違うのにチグハグ感とかが

『空中庭園』を観て感じたそれと近い気がした。観たの前すぎてあまり覚えていないけど…こののりで邦画も好きになれたら良いのにな…

今月の方舟さくら丸

音隅 管譜@otonezumi・Jun 24

「違うんだな。男が結婚詐欺をするときは、医者だとか、地主の息子だとか、会社の役員だとか、職業や財産を餌にするでしょう。でも女の餌は、女じゃない。ぜったい損だと思ふ。職業を聞かれて、ただ男って答える男はいないけど、女は、ただの女で通用しちゃうんだな」

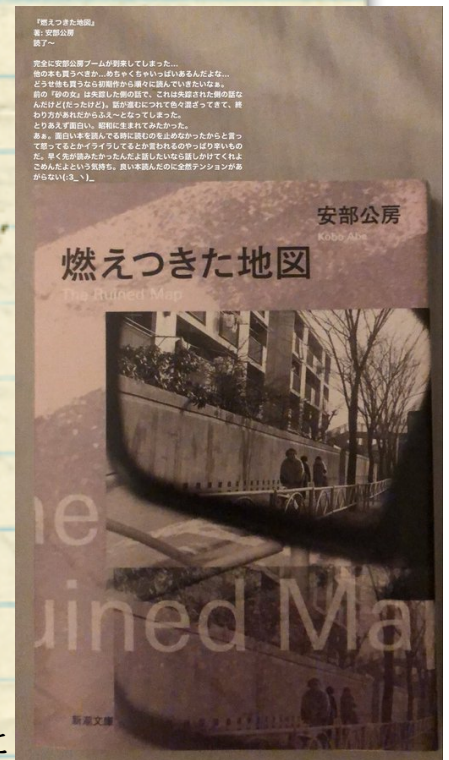
—安部公房『方舟さくら丸』

今月の内なる辺境

早川タダノリ@hayakawa2600・Jun 29

リプライで教えてもらった安部公房『内なる辺境』（中公文庫）を読んだ。

「……ともかく、反ユダヤ主義なるものの根拠が、ユダヤ人の存在そのものよりも、むしろ「本物の国民」という正統概念の要請の内部にひそむ、一種の自家中毒的症状だと考えて、まず間違いはなさそうだ」（76頁）



今月のクレオール

ムラタ製作所@murata1970・Jun 26
キーボードピコピコやってました。
安部公房氏が話していたクレオール言語についての話からインスパイアを受けてます。

今月の鞆

時月@timemoon8729・Jun 28
この年になって、昔授業でやった安部公房の「鞆」に意味を見出せるようになった。多分私にとっての鞆が増えたことや、楽な道を行きたいとおもう心が増えたせいなのかなとか思う。ああいった作品は下手に考察する方が野暮だとは思いますが、感想ならばいいだろう、と、言い訳しておく。

今月の乃木坂46

僕@keso8823・Jun 28
僕が昔からずっと好きなものをことごとく乃木坂がなぞっていく。
スピッツとか、森見登美彦とか、安部公房とか、ジョジョとか、その他諸々

今月のSFマガジン

森晶磨 Akimaro Mori@millionmaro・Jun 26
発売中の『SFマガジン 8月号』の〈ハヤカワ文庫JA総解説PART1〉にて安部公房『人間そっくり』、松尾由美『バルーン・タウンの殺人』の解説を担当しています。

今月のサカナクション

【公認】サカナクション一郎発言bot
@ichiro_bot・Jun 28
カンガルーノート/安部公房



今月の生前整理

shima shima@SmzPontaSUPER11・20h

今日の #読書Open book

生前整理を兼ねて50年ぶりの再読。#安部公房

あの頃は若かった。何も怖くなかった。何でも出来ると思い込んでた。ただただ何かを求めて読み耽った作品。作者の世界観にどっぷり耽溺した至福の日々を思い出す。老した今でも未だ行間に何かを求めているあの頃の自分を感じながら読了。

今月の不協和音

軟骨(しお)@honne_pesca_st・Jun 27

友だちから、「あなたの文章はうっすら安部公房の匂いがする。整えられてる方が好きだけど、不協和音がする感じも魅力的ね。」って言われた。

思いの外うれしい。

私の中のうつくしいものはいつだって不協和音を孕んでる。

今月のワープロ

原子心鰯@AtomHeartMullet・Jun 25

安部公房はワープロ使うときに、ローマ字入力だったのかそれともカナ入力だったのか、全集をちゃんと読んでいけばどこかに書いてあるだろうか。

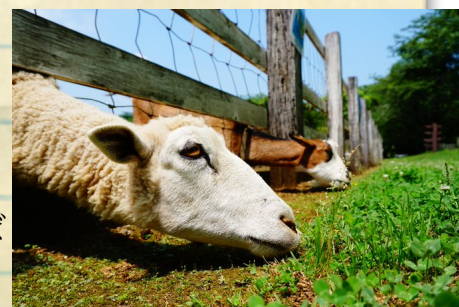
今月の羊腸人類

一日一羊(いちにちいちひつじ)Ram@Ptarmigan0606・Jun 25

一日一羊(485)

「羊腸人類」は安部公房の企画・脚本によるテレビドラマ。昭和37年(1962)放映。

ドラマシリーズ「お気に召すまま」の作品のひとつ。人がヒツジの腸を獲得し、草を食べることが出来れば貧困が無くなり、世界平和になると考えた男のお話。



もぐら通信

今月の壁

絵本クリエイター:Keizo Murai@dune3rd・Jun 25

安部公房「壁」

S・カルマ氏の犯罪 その5

名前を失った主人公は
地下にあるホールに連れていかれる。

続々と入ってくるのは
これまで出会ったことのある人々。

行きつけの食堂の少女
職場の同僚
ついさっき出会った画家
そして
死んだ妹や母親までいる。

なんだか
いや〜な気持ちになる展開です

今月の安部公房全作品

バサラブックス@basarabooks・Jun 26

人気の安部公房の作品集も揃ってませんがまとまって
入荷しましたElectric light bulb
(写真を)

今月の初版本

moTOY@moTOY1967_sub・Jun 26

#photography #安部公房

ギャラリー巡りをしていたら、初版本がとんでもない
安価で手に入ってしまった



今月の偶然と必然

安部公房「友達」bot@kobo_tomodachi・Jun 24

いかなる必然も、しょせん意識された偶然...じゃなかったっけ？

～長男～

今月の榎本武揚

G J @judo_gen・

Jun 24

榎本武揚！？榎本武揚じゃないか！安部公房の榎本武揚は、いつかライトマンで上演してみたい榎本武揚なんだよなあ！榎本武揚ー！やー！

今月のお葬式

根性@kyomuprix・Jun 28

常田大希さんの推し作家が安部公房と知って俄然興味湧いちゃった、安部公房が好きなクリエイター全員死ぬまで幸福になりますように

今月の読書会

読書会コミュニティ『本コミュ』7/3 (20:00～) 読書会開催

@honkomyu・Jun 24

おはようございます！次回の読書会は6月24日(土) 20:00～開催！

テーマは「安部公房」。

是非みなさんのおすすめ本を教えてください♪

女性がファシリテーターを担当しますSmiling face

読書会初心者の方でも、安心してご参加ください！

symbol : <https://www.kokuchpro.com/event/3ff9f2a886cf28c77a7143a372639789/>

申し込みはPeatixにてDown pointing backhand

<https://t.co/GsV6hyPKsN?amp=1>

『本読み会』@honyomikai・Jun 24

『友達』、安部公房戯曲の最高傑作の誉れ高い作品です。ご参加お待ちしております！

【6/26(土)】 解説付き「本コミュ」読書会 #55:テーマ「安部公房」

2021年6月26日(土) 20:00～21:30

BI O

Googleカレンダーに追加 カレンダーアプリに追加

次回のイベント案内を受け取る

興味ありリストに追加しておく
イベント公開時に案内が届きます

興味ありリストに追加する

アナタの「推し本」を
熱く語ろう！ ゆる～く語ろう！

解説付き
本コミュ読書会

「本」でつながる！
読書会コミュニティ
本コミュ

絵本クリエイターと語ろう！
絵本作家の創作現場を覗いてみる

今月のシンセサイザー

Arata Tarata@arata_tarata・Jun 23

安部公房がシンセサイザーについて語る動画

https://youtu.be/2RttZ3J5_YE?t=7



Kōbō Abe's EMS Synthi AKS

安部公房、愛用のEMSシンセの前に音楽を語る。1985年
youtube.com

今月の新生

Jin@Jin74271802・Jun 29

しんせい。保管していた最後の一箱を開封して一服。

ルパン三世の銭形警部が吸い、三島由紀夫の「潮騒」、安部公房の「砂の女」でも描写されているというタバコ。甘い香りがする。

1949年(昭和24年)6月1日発売。

2018年(平成30年)12月廃止。



今月の上演

げきぴあ byチケット

ぴあ@gekippia・Jun 25

【インタビュー】ケムリ研究室no.2『砂の女』に仲村トオルが参加

演劇ユニット「ケムリ研究室」が、#安部公房の

不朽の名作『#砂の女』の舞台化に挑む！

#緒川たまきさん、#仲村トオルさんに話を聞きました！Sparkles

<https://t.co/SIfbMc2aU4?amp=1>



吉岡克真@劇団皇帝ケチャップ@kycafe・Jun 28

安部公房『友達』

これほどまでに読み続けることが出来ない程度のいらだちと嫌悪感を抱かせてくる作品は今まで出会えていない。舞台なら少しは冷静に観れるだろうか

もぐら通信



友達

作：安部公房 演出：上演台本：加藤 拓也

東京公演：2021年9月3日(金)～9月26日(日)
サンケイホールブリーゼ

大阪公演：2021年10月2日(土)～10月10日(日)
新国立劇場 小劇場

SIS

という期待もありつつ。

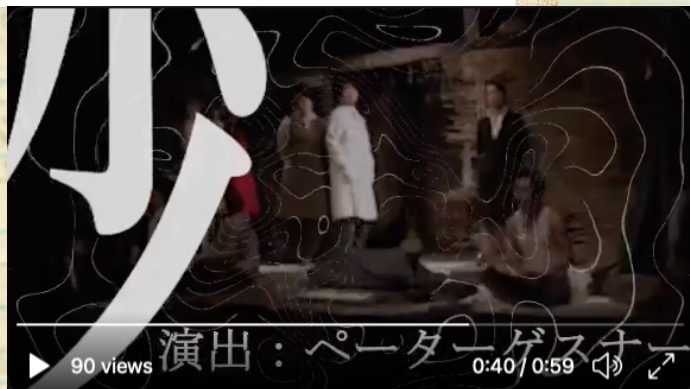
今月の砂女

宇野雷蔵@raizo0829・Jun 27
うずめ劇場第35回公演
シビウ国際演劇祭2021招聘作品

「砂女」

原作：安部公房

演出：ペーターゲスナー



予約はDMまで。

(pv作りました)

宇野雷蔵@raizo0829・Jun 27
うずめ劇場第35回公演
シビウ国際演劇祭2021招聘作品

「砂女」

原作：安部公房

演出：ペーターゲスナー

予約はDMまで。



今月の草月流

lesona@lessonno2・Jun 26

草月アートセンターに僕は間に合わなかった。もう少し早く生まれていれば、安部公房が毒茸に喩えた紫の旧草月会館で、ジョン・ケージやカニングハム舞踊団を目撃し、ラウシェンバーグに質問をはぐらかされ、草月実験映画祭でスコリモフスキの『バリエラ』をリアタイ出来た。今度は逃さない。

第132号 (第二版) を発行しました。ダウンロードは：[https://](https://docdro.id/seJeDzo)

docdro.id/seJeDzo 訂正箇所は次の通り：

P17：訂正前：安部公房の祖父

訂正後：従兄の祖父

P47：訂正前：自己の身心ををよび

訂正後：自己の身心をよび

巻頭詩

(19)

『二十億光年の孤独』

谷川俊太郎

人類は小さな球の上で

眠り起きそして働き

ときどき火星に仲間を欲しがったりする

火星人は小さな球の上で

何をしてるか 僕は知らない

(或はネリリし キルルし ハララしているか)

しかしときどき地球に仲間を欲しがったりする

それはまつたくたしかなことだ

万有引力とは

ひき合う孤独の力である

宇宙はひずんでいる

それ故みんなはもとめ合う

宇宙はどんどん膨らんでゆく

それ故みんなは不安である

二十億光年の孤独に

僕は思わずくしやみをした

周辺飛行

(43)

3. 『周辺飛行』について(21)

周辺飛行41：五月のスタジオ公演

岩田英哉

『新潮日本文学アルバム 安部公房』から、『どれい狩り』初演の年の前後と此の大幅に手を入れて『新どれい狩り』を上演した年の前後を引用して、読者に此の時間の隔たりと、その間継続して同じ形象と動機を探究し続ける非常に強靱な安部公房の意志を、ここでも、見て欲しい。そして、この作家を偲んで欲しい。

『どれい狩り』初演の年の前後(同書105ページ)：

「昭和二十九年(1954)三十歳

二月、長女ねり誕生。書下ろし長編小説『飢餓同盟』を講談社刊。四月号「群像」に創作「変形の記録」。十二月号「文藝」に戯曲「奴隸狩、一」、「群像」に同「制服」。

昭和三十年(1955)

三月、「制服」を青俳が上演。四月号「文藝」に創作「棒」

問：一体この劇の科白のどこが周辺飛行なのであろうか？

答：ウエーといふ動物が、箱の中に梱包されて届けられるといふ此の箱詰めの動物であるといふところが、周辺飛行と呼ぶに相応しい主人公の登場の仕方だからです。戯曲『鞆』の中で物音を立てブツブツと呟く男を思つて下されば、あなたには十分に周辺飛行の意味は通ずるでせう(「周辺飛行 10」もぐら通信第100号)。要するに、ウエーは箱男であり、人間そつくりの火星である。即ち、如何にこの迷路である閉鎖空間から脱出するかを求める人間Aか人間A'、即ち贗人間か、はたまた『カンガルー・ノート』の垂れ目の少女Bの如くに人間Bであるか。といふことなのです。

舞台がここまで明らかになれば、ここから先はあなたは観客として劇場の椅子に安楽にしてゐて、いつもの安部公房の愉快的笑ひに満ちた科白を楽しむのが良いといふことになります。勿論いふまでもなく、この劇にあつても「直接観察の対象とはなっていないが、あらゆる場面につねに君臨している、特権的重症患者一名」は行間に、舞台の科白と科白の間に「汎神論的存在論」的に遍在してゐることを、読者としては、忘れてはなりません。この「特権的重症患者一名」とは一体何か？

何故どのやうにこの『どれい狩り』といふ珍獣の登場する戯曲が生まれたかは、『更科源蔵と安部公房～『どれい狩り』、『ウエー』の旅～』(もぐら通信第25号)

をご覧ください。その一部を以下に引用します。

「安部公房全集の年譜を見てみると、安部公房が「例外的に多忙なものですから」と言っている1953年は、やはり共産党の文化活動に忙しかっただろうと思われ
ます。

それから、この年の11月2日に「壁あつき部屋」のシナリオをキネマ旬報11月上旬号に発表しておりますし、また同じ年の11月2日に「〈執筆者通信〉」として次の記録があります（全集第4巻、62ページ）。

「△飢餓同盟（仮題）という書き下ろし（講談社）、十月中に書きあげる予定です。

△十一月四日に、松川事件公判のため仙台へ行くつもりです。ついでに真鍋呉夫君と東北の農村をまわってみるつもりです。

△今年はあと、「犬」という短編一つと、次の長篇「ハムスター」（仮題）にとりかかる計画。」

このとき、安部公房は、『壁あつき部屋』を書き、『飢餓同盟』を同時に書いていたのです。確かにこの年は忙しかったことでしょう。『飢餓同盟』は、1953年11月1日に完成しています。『飢餓同盟』が「10月中に書き上げる予定です」と、11月2日付の通信に書いているのは、通信の編集部からの照会が10月であったからでしょう。

この記録から行くと、安部公房が更科源蔵と弟子屈を尋ねたのは、11月4日には真鍋呉夫と仙台、東北へ行くところなので、10月か12月かということになります。

しかし、ここに面白い記述があって、「次の長篇「ハムスター」（仮題）にとりかかる計画」とあります。このハムスターの話は、安部公房が北海道を汽車で走っているときに、席を同じくした北海道の老人から聞いて発想した話です。この話は、北海道から帰った翌年、1954年に『奴隸狩』という小説になり、更に1955年に『どれい狩り』という戯曲になり、更に1975年には『ウエー』という戯曲に発展しました。1954年の『奴隸狩』という小説に、既にウエーという名前で人間そっくりの動物が出て来ます。

この「次の長篇「ハムスター」（仮題）にとりかかる計画」については、全集の中で、1975年になって、安部公房が2度言及しています。ひとつは、新潮文庫版の『笑う月』にも所収の『藤野君のこと』というエッセイ（全集25巻、258ページ）、もうひとつは、『自作を語る—「ウエー」』と題したインタビューです（全

集第25巻、346ページ)。安部公房、54歳。『箱男』（1973年）を書いた後、『密会』（1977年）を書く前です。）。

前者の方が、このときの北海道旅行の契機、即ち何故更科源蔵が安部公房を北海道に呼ぶことができたのかということと、この「ハムスター」の話の種になった経験を生き生きと知ることができるので、エッセイの方を引用します。

『ウエー』に登場する飼育係にモデルがあり、大陸から帰ったときの船の中で見た藤野君という名前の実在のモデルであったことを記憶を辿って思い出し、そして、「この戯曲の真の主演—もしくは主題—である、『ウエー』そのものが、ある意味ではモデルによって成り立ったものなのだ。」と言って、次のように話を続けます。

「こちらの方（引用者註：藤野君ではなくて、ウエーという生き物の話の方という意味）は、二十年ほど前のことになる。たしか、放送局の招待か何かで、北海道旅行をした時のことだ。当時のぼくは、まだほとんど無名で、なぜそんな機会にめぐまれたものやら、今ではさっぱり思い出せない。たぶん、北海道が原籍だということに、何かの偶然が重なった結果だろう。とにかくぼくは、数人の老人（地元の同人雑誌か、放送関係者？）といっしょに、汽車に乗っていた。」

この箇所を読むと、安部公房の記憶にある通りに、確かに当時更科源蔵は、NHK札幌放送局の囑託でありましたから、その放送局の企画を立てて、NHKのお金で安部公房を北海道に招待したものだということがわかります。しかし、1953年の屈斜路湖畔で撮った写真に写る更科源蔵のことは、すっかり忘れているようです。数人の老人というのは、その中に山中エカシという白髭のアイヌの老人が居たので、その記憶がまだ残っていたのでしょう（エカシというのは、日本語で老とか翁という意味のアイヌ語の一般的な尊称です。山中翁というわけです。）。そうして、安部公房が29歳の若者であったのに対して、更科源蔵は49歳、吉田一穂は1898年生まれで55歳でしたから、22年後の1975年には安部公房の記憶にはこれらのひとたちの年齢も姿も混然となって、そのような記憶として残ったのでかも知れません。或いはまた、列車の中で北海道の実際に古老に会って話をしたのでしょう。そして、次のようにエッセイは続きます。

「車窓の外には、原野がひろがっていた。その原野にたなびく幾本もの白い煙の帯を指しながら、老人の一人が、やがてとほうもなく奇怪な話をはじめたのである。

いま北海道では、あのおり、いたるところでアムダ狩りが行われている。アムダというのは、戦時中、軍が音頭をとってその飼育を農家に半ば強制してまわった、人間そっくり（原文傍点）の動物で、皮はなめして靴や鞆に、肉は軍隊用の罐詰に、骨は歯ブラシの柄から、ボタン、カルシウム剤の原料、等々と、かなり大々

的な期待がかけられていたらしい。さすがに、期待されただけのことはあって、そのアムダは信じがたいほどの繁殖力をもっていた。またたくうちに、アムダの大群が、飼育場という飼育場にあふれ、軍が受け入れ態勢をととのえるより早く、肝心の飼料の方がすっかり底をついてしまったのだ。そして、そんな状態のまま、終戦を迎えてしまうことになる。

恐ろしい食糧難の時代だった。アムダの肉が歓迎されたのは言うまでもない。殺すはしから、飛ぶように売れ、たちまち大半が食いつくされてしまったという。だが、ごく一部の農家では、どうしても食う気になれず、飼育場の扉を開けて、そのまま逃げるにまかせたらしいのだ。考えてみれば、無理もない。人間そっくり（原文傍点）では、殺すにしのびなかった者もいたはずだ。かと言って、飼いつづけるには餌の負担が大きすぎる。自由にしてやるのが人情というものだろう。逃げたアムダは、山にのがれて、細々と暮らしていたらしい。そのうち、野生化が進むにつれて、再び旺盛な繁殖力を取戻し、やがて山の収穫だけでは不足しはじめたらしく、里に降りて田畠を荒らすようになってきた。被害は加速度的に増大し、人間に似ているという理由だけで、黙認してはられないまでに至ったのだ。類似は逆に、怒りを掻きたてる原因にさえなった。こうしてアムダは再び農家の大きな関心の的としてよみがえったのである。ただし今度は、憎むべき殺戮の対象として。

刺激的な話だった。ぼくはすっかり興奮してしまっていた。現実の寓話化はそう珍しくないが、寓話の現実化は、初めての経験である。まっ暗なトンネルの底から、いきなり照りつける八月の浜辺にほうり出されたように、目がくらみ、息がはずんだ。反常識の勝利だろうか。ついに、目を開けたまま夢を見られる（原文傍点）時代が、やって来たのだろうか。

老人にたずねてみた。この旅行中に、うまくアムダを見る機会があるでしょうか。おやすいご用です。一匹十円で買い上げていますから、役所の裏でも覗いてみれば、死体がごろごろしていますよ。でも、そんな大事件が起きているというのに、新聞も、動物学者も、よく黙っていられますね。老人は、はにかむように笑って、小声で答えた。ま、みともないからでしょうね。北海道の連中は、間抜け扱いされることに、とくに神経質なんですよ。

ぼくはさらに感動を深めた。これほどの異常事態を、こんなふうに淡々と、日常茶飯のように喋る時代が、いつの間にかやって来ていたのだ。日常を夢の言葉で語るの、そう面倒な事ではない。だが、夢を日常の言葉で語りつくすのは、めったな感覚で出来る事ではないだろう。いまこそ万人が詩人に生まれかわる時なのだろうか。

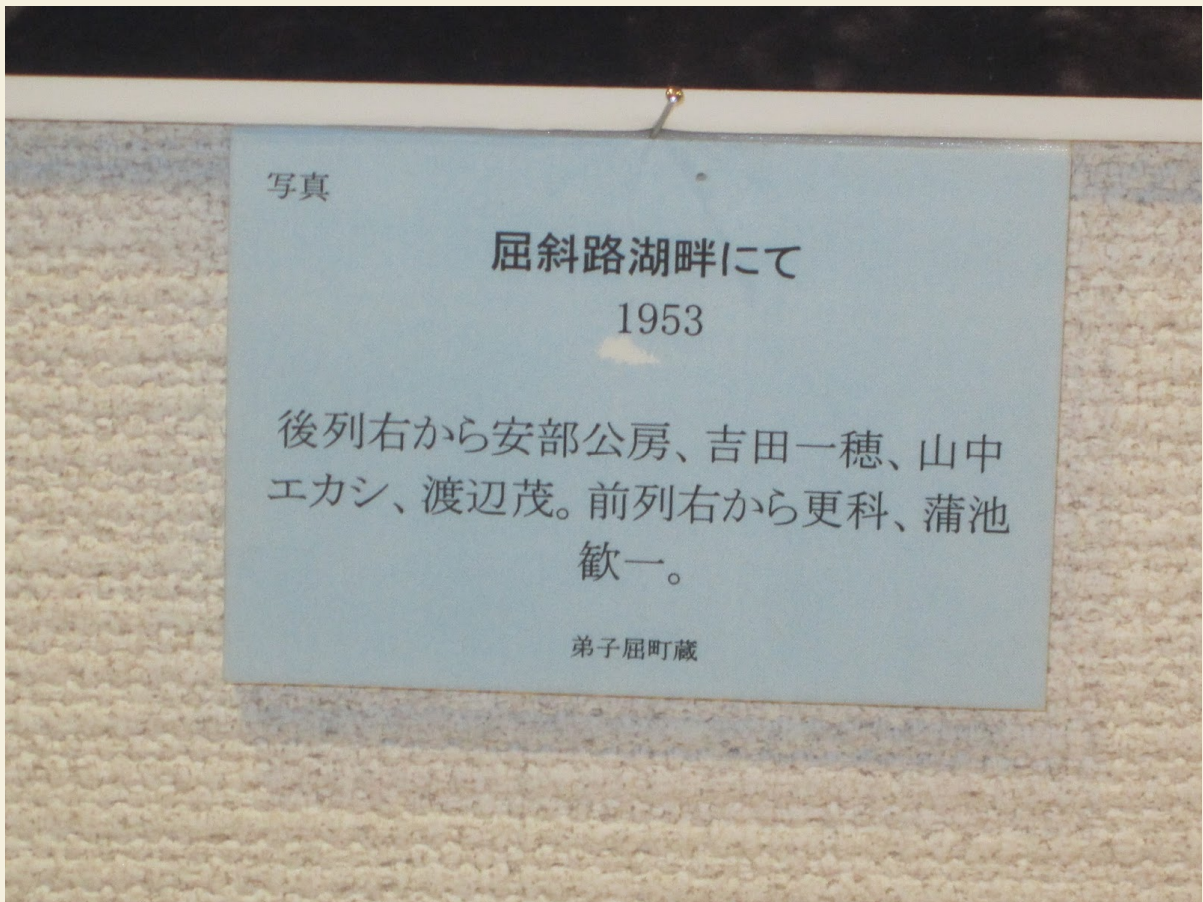
しかし、重ねて問い返し、当然のことだが、すべてがぼくの単純な聞き違いのせいに過ぎなかったことがはっきりした。アムダは、なんと、ハムスターの聞き誤りだったのである。そして、そっくり（原文傍点）なもの、「人間」にではなく、「ネズミ」にだったというわけだ。種が分ってしまえば、なんと言うこともない。老人の北海道弁は聞き取りにくいものだし、列車の騒音も、いまよりはるかにひどかった。

それでも、この誤解を手がかりに、間もなく『どれい狩り』の構想が生まれることになったのだ。それが、さらに、こんどの『ウエー』として実を結ぶことになる。あの列車の中でひろった、ちっぽけな誤解の種子が、二十年以上にもわたって生きつづけようなどと、誰に予想し得ただろう。しかし、そんなものかもしれない。いつだって発想の眼というやつは、育ってしまわなければ目鼻立も分らない、曖昧しごくなものなのだ。」

1953年の、更科源蔵に招待されて北海道を訪れた安部公房は、このような経験をしたのです。実に実りある旅でした。この旅がなければ、『どれい狩り』も『ウエー』も生まれなかった。どうも、安部公房は、帰京後すぐに手を染めたとおぼしい1954年発表の『奴隷狩』という小説については、1975年の時点では忘れていているようです。

さて、こうしてみると、1953年11月2日の「〈執筆者通信〉」に「次の長篇「ハムスター」（仮題）にとりかかる計画。」と既にある以上、安部公房が更科源蔵を尋ねて札幌に行き、更に足を伸ばして「人里はなれた」弟子屈まで旅行をした月は、やはり1953年の10月と考えるのが妥当です。北海道の秋は寒いものですから、みながみな写真の通りに外套を来ていて不思議ではありません。





この「次の長篇「ハムスター」（仮題）にとりかかる計画」とある「〈執筆者通信〉」の次に、同じ1953年の歳の暮れ、12月28日に『〈芥川・直木賞作家の近況〉『別冊文藝春秋』のアンケートに答えて』と題して、次の資料が残っています（全集第4巻、63ページ）。

- 「（一）現在執筆中の御仕事について
（二）二十九年度の抱負について

一、明朝、去年の暮れからかかっていた「飢餓同盟」を書きあげる予定。三百五

十枚。あとは年末までに短編一ツ

二、来年は長篇を二ツとシナリオ一ツ、それにできれば芝居を一ツ書きたい。長篇は、ハムスターという、人間とそっくりで、ただ口がきけない食肉用家畜の話と、密輸団にやとわれている少年を中心にした冒険小説である。」

当時の舞台の写真です。



ナンシー・シールズ著『安部公房の劇場』に此の時期の安部公房についての回顧的な記録があります（同書『ウエー（新どれい狩り）』の章。146ページから154ページ）。また、この時期に安部公房が依然としてリルケの詩に対する安部公房の深い思ひについて、真知夫人の言葉で「はにかみ屋の安部がリルケの詩に寄せるこの愛着を語ったのには驚いたと明言した。」とあります（同書22ページ）。

戯曲『友達』の初演でアパートの管理人のおばさんが客席に降りて来てチラシを配って廻るといふ趣向が凝らされてみましたが、これは、そのまま「直接観察の対象とはなっていないが、あらゆる場面につねに君臨している、特権的重症患者一名」であるチラシが、客席に配布されてみるとは、これが安楽に椅子に腰掛けてあるあなたと隣人の間、スキマ即ち差異に隠れてみる、公然の秘密として誰もが気付かない「特権的重症患者一名」としてのチラシなのであり、安部公房の世界は汎神論的存在論の世界ですから、何枚何百枚何千枚撒かれやうが1であるチラシといふ名前の、誰にも其の存在の気づかれることなき「特権的重症患者一名」であるのは、舞台の上の一枚布が自由自在に変形する存在の形象であるのと同じことなのです。

安部公房は、遅くとも安部公房スタジオを立ち上げてから、家人にも知られることなく密かにリルケを読んでいたといふ推理は、この連載のどこかで既述の通りですが、このウエーにも同じリルケの詩の変形があります。前回既述のところは、『オ

ルフェウスへのソネット』の「第2部 XVI」に歌はれてゐる羊ですが（「リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（41）第2部 XVI ~安部公房をより深く理解するために~」もぐら通信第98号）、これから安部公房はテレビ・ドラマ『羊腸人類』や短編『盲腸』を創造したわけですし、そして今回は安部公房スタジオ初演のために戯曲『緑色のストッキング』を書いたわけですが〔註1〕、今回のウエーといふ珍獣では、リルケの『豹』と題した、これも有名な詩（ドイツ文学史上では「事物詩」（Ding-Gedicht、英語でいふならthing poem）と呼ばれてゐる種類の詩）を变形させたものです。

〔註1〕

「リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（41）第2部 XVI ~安部公房をより深く理解するために~」もぐら通信第98号）より以下に引用します：

「【安部公房の読者のためのコメント】

最後の連の最後の二行、

「そして、羊は、静かな本能から 自分の鈴を懇願して得るのだ。」

この二行で私の連想するのはテレビドラマ『羊腸人類』（1962年）と、その元になつた短編小説『盲腸』（1955年）と、それから『方舟さくら丸』（1984年）の当初予定の名前『志願囚人』です。

もし安部公房が同様の連想をして最初に短編『盲腸』を書いたとしたら、安部公房は自分の想像力が湧き出るやうにと自分の内部から外部へと言葉を産み出すために、そして現実と虚構を等価交換するために、絶えずリルケを読んでみたといふこととなります。

安部公房の蔵書目録があれば、読みたいところです。

最初の連の、

「何度も何度も、私たちによって、引き裂かれるように引き開けられても、神というものは、治癒する場所であるのだ。」

といふ二行からは、一層『盲腸』の主人公、腹を「引き裂かれるように引き開けられて」羊の盲腸を移植されたKを連想します。果たして、「治癒する場所」に「神というもの」がゐるかどうか。

良い機会ですから、参考までに『羊腸人類』をめぐる作品の年譜は、全集によれば、次のやうになつてゐます。時系列で見ますと、安部公房スタジオの演目である『緑色のストッキング』に最終的には結実してゐる。といふ事は、1955年4月1日の小説『盲腸』に、既に詩的舞台へと連絡する詩の世界が含まれてゐるといふこととなります。

1955年4月1日：小説『盲腸』（全集第5巻、65ページ）

1962年11月10日：テレビドラマ『羊腸人類』（全集第16巻、401ページ）

1974年10月15日：戯曲『緑色のストッキング』（全集第25巻、151ページ）

これらの異なる範疇の作品に共通する主題は、人間に羊の盲腸を移植して人間が草食人間になることによつて、人類の食糧危機といふ飢餓の問題を解決するための改造人間を作らうといふことです。

この飢餓は、勿論、安部公房の事ですから単なる腹ペコの話ではなく、抽象化された虚構の中の飢餓となつてゐます。即ち、

短編『盲腸』に出て来る飢餓といふ言葉を見ますと、次のやりとりが、羊の盲腸を移植された主人公Kと手術とその後の養生の管理をしてゐる助手の牧との二人の間で交はされます。この会話がバスの停留所といふ存在の方向への道標（みちしるべ）の立つてゐる場所だといふことにも、この会話によつて意義あることとせう。二人の言葉のやりとりの続いた中のある所で、主人公Kが牧といふ助手に次のやうに言ひます：

「すると、君は、スパイか……」 牧はあわててあたりを見まわし、声を低めた。「そんなふうには言わないで下さい。あなたは事情をまったく誤解しているんです。いいですか、来月の学会は飢餓問題に関する二つの大きな原理の決戦場になるのです【a】。その勝敗の鍵をあなたが握っている。あなたはこの問題を真剣に考えた事がありますか？」 「二つの原理……」 Kはおどろいて牧の顔を見返した。「いったい君はなにを言うつもりなんだ？」 「ぼくにもよく分からないんです。人間は自然をつくりかえてきた。しかし、偏見はいつもその邪魔をしようとした。いま、われわれの原理は、人間の内部の自然をつくりかえようとしている。（略）」 「もう一つの原理は？」 「もう一つの原理は、革命です」（全集第5巻、73ページ上段）

【a】に云ふ「飢餓問題に関する二つの大きな原理」のうちの一つは、この引用の前に出てくる「エレックス先生」といふ名前の先生の発見した原理で、Kに手術を施した「教授」と呼ばれる博士（である筈の男）は、その「先生」についても「原理」についても説明する事が一切なく、常にこの二つの名前を挙げて此の手術への疑義や反論に答へるだけで、それ以外には何の説明もなしで、ただ強圧的に言論と意見の開陳を封ずるのです。とすれば、この飢餓問題に関する二つの原理とは、このエレックス原理と革命原理の対決といふことになり、これは、そのまま『飢餓同盟』といふ作品で「飢餓同盟」といふ名前の由来と飢餓同盟の目指す所を、この飢餓同盟発表の翌年の此の作品でも尚、指し示してゐることになります。二つの原理とは、勿論『飢餓同盟』に描かれたのと同様に、この短編にあつても依然として超越論と共産主義原理の対立です。この主人公Kの実験結果発表の学会の名前が「飢餓学会」といふのも（全集第5巻、76ページ下段）また依然として、この日本共産党員であつた時代の安部公房の動機（モチーフ）を表してゐます。

もし私の此の推理が正しければ、安部公房は生涯に亘つてリルケを読み返してゐた、それも此の例にあるやうに『オルフェウスへのソネット』を読み返した。さうだとすれば、もう一つ常に参照してゐたのはやはり『マルテの手記』でありませう。これらの事が、安部公房の其の奇抜な発想の源泉であつた。リルケの存在論の詩をtopologyで換骨奪胎して、自由自在に内部と外部の等価交換と、互ひにある要素の関係の裏返しによる虚構の創造は、安部公房にとつては論理としては実に楽しい遊びであり、お手の物であつたでせう。あとは形象（イメージ）が湧いて来るのを待つ。これが安部公房の問題上昇（デジタル変換：概念化：モデルとしての小説の創造 [註●] [引用者：この註省略]）であり、問題下降（アナログ変換：形象（イメージ）の湧出）であるといふことになります。」

かうしてみると、

安部公房の Rilke の詩の変形の特徴は、Rilke の汎神論的存在論の形象（イメージ）を笑いとユーモアのある道化的な形象及び道化的脱出の形象に変形させることである。

と要約することができます。

それが証拠にはいひませんが、次の「周辺飛行42」の題名は「道化的脱出劇」といふのです。そして、この周辺飛行は、安部公房のエッセイ集『内なる辺境』所収の「ミリタリィ・ルック」といふ、云つてみればナチス軍服純粹制服美学論の最後の段落である二行「ともかく、どうやら、悲痛な異端の時代はすでに過ぎ去つたらしい。本物の異端は、たぶん、道化の衣装でやってくる。」と、その論理を共有してゐるからです（『ミリタリィ・ルック』全集第22巻、135ページ下段）。

この位相幾何学的な形象の変形から生まれる道化的脱出劇の持つ笑ひについて、安部公房は『あなたにトポロジー的哄笑を一帰属本能への挑戦小説「人間そっくり」』（1967年）と題した短文を書いてゐます（全集第20巻、492ページ）これはそのまま、ミリタリィ・ルック論と小説『人間そっくり』の作者による簡潔なる解説ですので、次の周辺飛行で併せて論じたい。

最後に、Rilke の『豹』と第した詩を掲げます。如何に安部公房は此の詩を換骨奪胎してウエーといふ珍獣を創造することによつて、この存在の豹を道化的脱出劇の主人公に変形したか。

【原文】

Der Panther
Im Jardin des Plantes, Paris

Sein Blick ist vom Vorübergehn der Stäbe
so müd geworden, dass er nichts mehr hält.
Ihm ist, als ob es tausend Stäbe gäbe
und hinter tausend Stäben keine Welt.

Der weiche Gang geschmeidig starker Schritte,
der sich im allerkleinsten Kreise dreht,
ist wie ein Tanz von Kraft um eine Mitte,
in der betäubt ein großer Wille steht.

Nur manchmal schiebt der Vorhang der Pupille
sich lautlos auf -. Dann geht ein Bild hinein,
geht durch der Glieder angespannte Stille -
und hört im Herzen auf zu sein.

Rainer Maria Rilke, 6.11.1902, Paris

【和訳】

豹

パリの植物園にて

その眼は、檻の棒が眼の前を幾つも幾つも過ぎてゆくので
そのために疲れてしまつて、もはや何も捉へることはない。
豹にとっては、恰も幾千もの棒が存在するかの如くであり
そして、幾千もの棒の背後には、世界は存在しないかの如くである。

しなやかな鋼（はがね）の強い一足一足の、柔らかい歩み、
それは、最も小さな円を描いて回転してゐるが、
それは何かの中心を巡る、力の舞踏のやうであり、
その中心では、ある大きな意志が麻痺してゐる。

本当に時折、瞳孔の幕が

音もなく上がるだけだ。と、ある像が豹の内部に入つて来るのだ、
四肢のピンと張りつめた沈黙を通り抜けて
そして、心臓の中で、その像は、存在することを止めるのである。

ライナー・マリア・リルケ、1902年6月11日、パリにて

【解釈と鑑賞】

この豹が一匹のウエーだと思ひ、更に安部公房の戯曲では、一匹だけではなく沢山のウエーが、恰も此のリルケの歌つた豹のやうに存在してゐるのだ、と思つて見るのはどうか。

最後の連は、いふまでもなくリルケの存在論であり、内部と外部が等価交換されるといふ、初期安部公房にあつて、大好きな非ユークリッド幾何学であるトポロジーでリルケの詩を自身の内部に入れて読み耽つた若者の姿を思ひ描いで欲しい。

この最後の連の「本当に時折、瞳孔の幕が/音もなく上がるだけだ。」といふ二行は、安部公房スタジオの舞台のあり方だといつてもよいのです。この舞台の内部と外部の価値がいつも等価交換されるやうにと、安部公房は戯曲を構成した。『友達』の初演では、かうして、管理人のおばさんは舞台を降りて、客席を廻ってチラシを配つたのです。この舞台の位相幾何学的な存在論は、そのまま俳優の身体の訓練と同期してゐたことは、かう書けば、安部公房の読者であるあなたには、ここまで「周辺飛行」を共にしてみれば、納得の行くことでありませう。何故、安部公房は、あのニュートラル・neutralとみづから名付けた演技法を、俳優たちに徹底したのかを（劇場と舞台と観客の同期と一体化）。さうして、安部公房は如何にリルケの詩の世界を、安部公房スタジオの形象（イメージ）の創造のために換骨奪胎して変形してみせたかを。

生涯を通じて、このやうな、形象の位相幾何学的変形の中に、安部公房は如何にリルケであつたことか。

Part I

塔の文学

(13)

岩田英哉

目次

Part I 塔の文学

1. 森鷗外の塔と夏目漱石の塔
2. 江藤淳の塔と三島由紀夫の塔
3. 三島由紀夫の塔と安部公房の塔
4. 安部公房の塔と埴谷雄高の塔
5. 小林秀雄の塔と安部公房の塔
6. 安部公房の塔と大江健三郎の塔
7. SF文学史を伝統的な日本文学史に上位接続 (conjunction) する
 - 7.2 一体二つの文学史はいつ何処で上位接続して一体となつたのか
 - 7.2.1 何故川端康成は安部公房の『壁』を芥川賞に推したのか
 - 7.2.2 「安部公房の読者にしか書けない『美しい星』論」から引用して、二つの文学史の同時代性の重なるの文学的な潮流を吟味する
 - 7.3 ヨーロッパの近代小説とは一体何であつたのか？
 - 7.4 そもそも日本文学に云ふ小説とは何か
8. 安部公房の塔と倉橋由美子の塔
9. 夏目漱石の塔 (F+f) と安部公房の塔 $\neg(F \times f)$

Part II 『文章読本』論

Part III 実践篇：小説『S・カルマ氏の逆襲』（英訳版・原題『The Fight Back of S. Karma』）：S・カルマ著〔翻訳〕岩田英哉

8. 安部公房の塔と倉橋由美子の塔（3）：4. 倉橋由美子の小説観：『反小説論』

この小説論でいふ小説とは、通読すれば実に明らかなことですが、明治以来の小説のことであり、従ひ「反小説論」とは日本近代文学と呼ばれて一括りにされてゐる全ての文学の否定です。勿論、例外はあつて、それらの作家には、その論旨を読むと、『密会』の書評を書いて献じた安部公房、精神の運動が文体だとい倉橋由美子と全く同じ主張（本人此の運動をは思想（pensée）と呼んでゐる）をして書いた石川淳、また『暁の寺』の冒頭の文章を優れた文章の例として引用してゐる三島由紀夫の名前があげられるわけですし、後の二者の名前はこの通りに論考中に実際に名前を挙げて肯定してゐる。加へて、『万暦赤絵』を引用して、本物の作家の文章として安心して読める作家の一人に、志賀直哉を挙げて、肯定してゐます。

要するに、倉橋由美子の小説観は、虚構小説か私小説かといふ既存の明治以来の文

学史上の分類に一切無関係である、といふこのことを前提にして、以下本論に入ります。この作家自身による小説の定義は、詩文が踊りであるのに対して「散文は散歩のようなものだ」（講談社『迷路の旅人』9ページ）といふ考へのもとにある次のやうな定義です（同書19ページ下段）：

「小説とは物語の形式を利用して思想（pensée）をつくりだす散文体の技術である。この定義は小説が精神の産物であることをいっていて、それが主として想像力の産物であるとする考えかたはここからきわめて遠いところに立つことになる。」

実に明快な小説の定義です。この定義の前後の作家の説く言葉から抽出してもう少し解説を加へると、

（1）思想（pensée）

思想（pensée）とは精神の散歩である。これは石川淳の散文がさうである。安部公房の読者としては、存在の弟子安部公房もまたこの定義に叶ふ作家と考へることができます。

（2）物語

物語とは話法（mode）によつて語られるお話のことである。倉橋由美子の場合には、全く安部公房と同じ構造を主張してゐて、その話法とは内的独白の話法「わたしのなかのかれへ」といふ話法である。安部公房の表記に合はせると、「わたしのなかの「かれ」へ」といふことです。倉橋由美子は小説家・作家と話者との関係を、また小説家・作家と読者の関係を、全く安部公房同様に、これによつて縷々様々な語彙で論中の文脈に応じて論じてゐます。即ち、安部公房の場合と同じく、この話法自体が、倉橋由美子の批評精神であり、精神の散歩なのです。

ですから、文章の質が、安部公房の文章の質によく似てゐます。これは二人の文章の質が同じだといふものではありません。それぞれの書くエッセイと小説の間に横たわつてゐる論理が上記の内的独白の話法ですから、このことによつて、二人それぞれに、小説とそれ以外の文章の間に通ふ文章の質（文体・styleと言つて良い）が同質であるといふ意味です。

（3）倉橋由美子が此の論中で太字にして強調した言葉

これを列挙します。これらの言葉を巡つて反小説論を書いてゐるのです。漢数字は此の論の章立ての数字です。

- 一：即興演奏、物語、読者、私的なもの、礼節、歴史、悲劇、叙事詩、思想、イデオロギー、反小説、固有名詞、変数
- 二：速度、書く速さ、想像力、思想（pensée）、叙述の順序、「描写、説明、分析、告白」、細密な描写、自然描写、心理分析、会話、饒舌の文体
- 三：おしゃべり、「僕」、自己表現、子どもの眼、物真似、形、拡大、統制、にせの散文、にせの詩、狂気、ことばの崩壊、個人誌
- 四：個人、自己、私小説、青春、批評、ピロクテーテス、遊び、模倣、夢の方法、モデル、無政府主義、叙述、判断、無意味な文章

- 五：小説を書く楽しみ、女の手仕事、小説で使えることば、普通、ことばのマニア、性、流行語、神、愛、古い皮質に属することば
- 六：文学青年、空想による模倣、精神の自己否定、精神の自己統制、想像、遊び、有益なもの
- 七：弱者の文学、人間の弱さ、苦悩、純粹個人、被害者、人間に対する批評、アゴン、絶対者、神々に似た人間
- 八：狂気、精神の病気、精神病の文学、崩壊、悪意、人間を超えたもの、体系化された狂気、逸脱、錯乱
- 九：愛、恋愛小説、愛の告白、幸福な結末、エロース、情熱、青春
- 十：汎性論、人生の一部、自慰行為、隈本、猥褻、危険な力
- 十一：難解、訓練、思想をなさない文章、不明晰、カフカの小説、曖昧さ、怪力乱神、形而上学的なもの

さて、倉橋由美子は、この『反小説論』と題した此の反小説といふ言葉について、次のやうに、上記の定義とは前後して定義する前に次のやうに述べてゐます：

「反小説といわれるものの出現については別の説明が必要である。反小説とか新しい小説とかいう観念が出てきたのは、小説の方法自体に関心が向い、それが科学的分析の対象となったことの結果であると考えられる。小説家は職人であることをやめて技術者か研究者になり、要するに小説書きが理論を実験によって検証する科学者の仕事となったからには、どのように新奇な理論や観念が出てきても不思議ではない。」（同書15ページ下段）

この論の第五章で、この作家は小説の型を三種類に分けて次のやうに述べてゐます。そして、二つ目の型の仕事を「女の手仕事」と呼んで、ジェーン・オースティンといふ女流作家の名前を挙げて此の型の例として言及してゐますから、自分自身もこの型の作家と考へてゐるのです。以下当該箇所引用です：

「小説を書く楽しみがたしかにあるとしても、それが物の喩えで軍艦を建設する仕事のようなものであるか、糸で何かを編むのに似ているか、それとも楽器をもって即興演奏をするようなものであるかによって、その楽しみにもおのずから違いがある。小説書きの仕事が第一の例に近いのはトーマス・マンの場合で、ヘンリー・ミラーは第三の場合にあたり、ただミラーは演奏しながらわめいたり唾を吐きちらしたりしているので、普通の人間からみるとそんなことが楽しいことだとはあまり思えない。Finigans Wakeを書いて小説の解体作業に熱中したジョイスについても同じことがいえる。それに対して第二の、編物風の小説ということになるとジェーン・オースティンあたりが思いだされて、これは楽しい女の手仕事に似ている。この種の小説では、ありふれた均質のことばが切れ目なく続き、編目はしっかりと狂いがな

く、観察の編み棒は細く着実に動いており、伏線の糸の使いかたや観念の模様の混ぜかたについても、女らしい計算が十分働いている。小説にとってこういう女の仕事のもつ性質は本質的なものではないかと思われる。（略）手の運びに狂いが無いことは小説が文学であるための必要条件のひとつであって、ここがいい加減であるものはまず荒っぽい仕事だという印象をあたえる。」（同書50ページ）（傍線引用者）

上記引用の傍線部は、実際倉橋由美子の小説もエッセイも備へてある同質性の作者自身による説明になつてゐる。

それでは、安部公房は如何に。倉橋由美子と同じ同質性を有する小説とエッセイであれば、そして実際に読んだ感触としても、一部の語彙を入れ替へて倉橋由美子の言葉を借用すれば、安部公房の作品は種類を問はず、「ありふれた所のない均質のことばが切れ目なく続き、編目はしっかりして狂いがなく、観察の編み棒は細く着実に動いており、伏線の糸の使いかたや観念の模様の混ぜかたについても、安部公房らしい計算が十分働いている」小説、これが倉橋由美子の言葉を借りた安部公房の小説の文体論といふことになります。

文学と毒薬の関係を、第八章に此の作家が論じて曰く、

「文学が毒薬に転じるためには、弱者、愚者、精神の病人、廃人を扱う際、それらが人間に対する悪意の凝固したものになっていることが必要で、そういう文学には、同じ悪意をもつ人間の舌を痺れさせる味わいがある。つまり毒薬をなめる楽しみであるが、勿論、人はそれで死ぬわけではない。」（同書84ページから85ページ）

弱者、愚者、精神の病人、廃人などといふ言葉は、皆安部公房の世界の言葉として通用してゐる言葉です。かうして見ても二人の文学は通底してゐます。安部公房文学の持つ毒を解毒するために『安部公房文学の毒について-安部公房の読者のための解毒剤-』（もぐら通信第55号）をご覧ください。ダウンロードは：<https://docdro.id/Vt7tF8Q>

この小説論を読み終えての私の感想は、なるほど確かに文学といふ奴は綺麗な模様の大皿の上に、これも綺麗に薄く透明に並べられてゐる河豚（ふぐ）を食らつて、毒に当たるのを楽しみにして舌鼓を打つ愚か者の世界であるな、といふものでありました。毒が当たらねば当たらないでまた毒を求め、当たれば当たつたでまた毒を求めるといふ救いやうのない、言葉の毒に喜んで痺れる文学の世界であります。

次は、論じてみて何が出て来るのか私にも見当がつきませんが、倉橋由美子の処女作『パルタイ』を論じます。

9。安部公房の塔と倉橋由美子の塔（4）：5。『パルタイ』論

(次号に続く)

糞尿と性愛の文学

～生殖器・排泄器同一社会論仮説～

(3)

岩田英哉

1。古事記の中の糞尿と性愛

1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）



目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
- 4. ネット・モナド論
- 5. 公私とは何か
- 6. 二階層戦争論とメディア論の関係
- 7. 政治形態と自由
 - 7.1 政治形態とは何か
 - 7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い
 - 7.3 ビルダーベルク会議とダヴォス会議と国家との関係
 - 7.4 メディア・プロパガンダの構造
 - 7.4.1 中国の超限戦の手口について
 - 7.4.2 ネット大衆と情報の真贋**
 - 7.4.3 何故極左・共産主義者たちは都市を狙ふのか
 - 7.5 政治形態EとAの公私：一神教のtopologyの政治形態
 - 7.6 政治形態Jの公私：高天原のtopology（超越論）の政治形態
- 8. 経済形態と自由
 - 8.1 経済形態とは何か
 - 8.2 資本主義と政治形態Jを如何に一つにするか：江戸時代幕藩体制下の信用取引に学ぶ
 - 8.3 ネット・メディアの役割
- 9. 私たちは如何に生きるべきか
 - 9.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
 - 9.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』
 - 9.3 グローカリストとしての千利休と後裔たち（令和時代の人間像）

7.4.2 ネット大衆と情報の真贋

ネット大衆といふ用語がやはり必要だと思つたので、この一章にこの題を設けました。

情報と真贋などといふ古典的な骨董市場や筆跡鑑定といふやうな世界の用語を持ち出して、情報とネットを結びつけると、結局人間といふのは進歩はしないで、ただ其の利便性の手段が変はるだけだといふ悟達に達したので一筆啓上といふ次第です。

大衆といふのは大量生産・大量消費の社会を前提にした其処で生活する消費者としての人々といふ意味で、これは二十世紀の代表的な言葉の一つでした。この章の後で、都市を論じますが、これはそのための布石です。消費者の縁語である大量生産とともに、この二つは一对の二十世紀の資本主義のあり方の解説のためのキー・ワードでした。

これを二十一世紀の今の時代に持つて来て置いて見ると如何なるか。さう考へても、何も変はらないといふ当たり前のことに気づきます。

当時は製品（製造者寄りの用語）や商品（販売寄りの用語）についての本物偽物と真贋鑑定は問題にはならず、単にいつも評論家のいふのは需要と供給（これが経済を解説するための最上位概念の一对、コト・タマと呼んでも良い）、もつと日常に降りてきて小さくいふと、売りと買ひ、即ち売買の間に市場が有るか無いかといふ話に留まつてゐました。

商品にも流行がありますから、やはり流行り廃（すたり）はあるので、流行ればそれは其の商品の旬であり（この時一番高く売れる）、廃ればそれは季節外れの商品といふことになつて中古市場に廻るといふことになる。

要するに物質的な商品といふ代物は、魚と同じで、海からすぐ岸壁のそばにある市場（いちば）で売り買ひされる時が最も旬で、この後の二次市場である都市の中にある市場（これはシジョウ）へと運搬されて販売されるときには時間の経つにつれて鮮度は落ちてゆくといふことになります。この商品といふ代物の鮮度は、しかし、日単位での測定に耐えるものでしたが、二十一世紀の情報といふ魚介類はどうかといへば、一瞬一秒一分です。一日単位で鮮度を保証する情報のある場所はブログと呼ばれ、せいぜい1時間単位で鮮度を保証する場所はTwitterと呼ばれる。後者については、場合によつては、緊急事態の時などは、一分単位といふこともある。私はFacePookと呼んでゐるaceBookの場合には、およそ最大で一日単位の鮮度保証がついてゐるといふところであろう。

問題は、これらのSNSにプロパガンダとしての偽情報が混じつてゐることで、ここでやつと情報の真贋といふ古典的な言葉とネット上を流通する情報といふ（しかし考へてみればこれも二十世紀の）用語の結びつく余地が生まれるのです。

考察の生まれる契機が、ここでも偽物に端を発するといふ事実と経緯は、どう考へても人間といふ生き物の抜き難い愚かさや悪事をなすことに関する嗜好の強さを肯定せざるを得ないといふことが情報と都市論の前提になるのです。従ひ、ここでは、人間は悪人であるといふ前提で、情報真贋論を論じたい。即ち、私の主

張は、

もはやいふまでもなく、情報を大量に消費するだけではダメであり、その情報の選別をしてその真贋を見極めて真実と事実のみを抽出することの速度と分析の深さが、ネット上の大衆である不特定多数の一人である個人に求められてゐる。前世紀では本物を買ふためには金が必要であつて金持ちであることが大変有利であつたが、対して二十一世紀では、あなたが金持ちか貧乏人かに拘はりなく、情報の真贋を見極めることができる。

といふことなのですが、これは当たり前といへば当たり前である。

しかし、これが存外に難しい。何故なら人間には感情があるからで、これを動かす言葉と理屈をいられると人間は衝動的に反応して、自分でもおもはぬことをしてしまふ。これを心理学から解き起こして、大衆化し、即ち通俗化して商業に及ぼし、金儲けの道具として活用したのは、これもいふまでもなくアメリカ人です。アメリカといふ国は何でも大衆化する。この国家特性、国民特性は今世紀も変はらない。

この大衆化を促進するための情報がプロパガンダと呼ばれてゐる。私たちはこれに対抗して我が身の安全保障を確保しなければならない。といふ物事の順序になります。このとき、情報の真贋を極めねば、我が身が危ふいといふことです。これが、あなたが大衆化しないための防波堤です。情報を洪水に譬（たと）へれば、防波堤といふことになる。ノアの洪水と呼ばれるやうな地球的な規模の大洪水が起これば、あなたの個人的な防波堤ではとても間に合はないといふことになつて、これが今世界中に起きてゐることです。旧約聖書の此の話は依然として事実として今も生きてゐるわけです。やはり、安部公房が建造したやうに、ノアの方舟をズラして位相を変へて、方舟さくら丸を私たちは建造する以外にはない。

となると、私たち安部公房の読者の直ちに想到するのは「死に急ぐ鯨たち」といふ鯨のことで、リーダーの鯨は緊急事態のときには判断を間違へて滅亡へと一団の鯨たちを導くので、リーダーのいふことに従つてはならぬといふ規則であるわけですが、これも安部公房の此の秀逸なエッセイを読めばお判りの通り、リーダーとは常に表立って大声で何かを話す人間ではないのです。キーワードは緊急事態であり危急存亡のときにはといふことなので、このリーダーは実は普段は隠れてゐて、その時の真つ只中に出現してしまふものなのかも知れないのです。東北地方で起きた集団的火災による被害者たちの心理を論じて、安部公房はこれを鯨の集団自殺と呼んでゐる（『死に急ぐ鯨たち』全集27巻、185ページ）。

安部公房がここでいふ緊急事態とは、一人一人が死に直面した場合のことであり、この作家のいふ肝腎要目のことは、火事の炎が身に迫つてゐる、自分の命が危ふいと云ふ時に群れなす人間たちのとる一斉行動の動機の分析なのです。

ここまで書いてきての私の想到した答へは、

やはり沈黙することは大切である

といふことでした。

これは不思議なことです。しかし、沈黙の時間といふ時間は、どの人の人生にあつても必須のものであり必至のものです。確かに思へば、私の近時思つたことは、人間といふ奴は一体何故こんなにお喋りなんだらうか？といふことでしたから、情報の洪水は確かに、これが原因であることは間違ひない。しかし、一体何故、更に、人間といふ奴は喋らずにはゐられないのだらうか？と問ふてみると、この人間の性（さが）を悪用したものがSNSであらうと思はれる。

しかし、それにしてもインターネットなどといふ無料の世界をアメリカ人の国防省はよくも発明したものである。アメリカはヨーロッパの鬼子であるが、その鬼子が無料で使へるネットの世界を生み出した。無料であるといふことは如何なる場合でも、共産主義・全体主義の温床です。この技術が軍事技術から生まれた以上、最初から盗聴できる仕組みができてゐることは、成り行きから当然であつて、何故この技術をアメリカが民間の利用に無償で解放したかといふアメリカ政府の判断については未だ誰も語つてゐない。結局かうなる：

アメリカと中国といふ二つの共産主義国家の覇権争ひの谷間にあつて、日本の国とあなたは如何に生きるべきか。

私は非政治的な人間であり、政治の話などしたくもないが、どうしてもこのやうなことに触れざるを得ないのは時代の趨勢だといふのであれば、私たちのなすべきことは実に明らかであり、それは、

文学と政治を混同しない

といふことであり、もう少し言葉の大きさを大きくして、しかも一種の戒律としていふと、

文化の範疇と政治の範疇は別物なので、この二つを決して混同してはならない

といふことである。

これに徹することが、あなたの身を護り、情報の真贋を見極める識眼を養ふことになるといふことです。昭和42年・1967年2月28日に、安部公房が三島由紀夫と共に、またそれぞれの師匠石川淳と川端康成とともに四人で出した反中国共産党に対する声明、即ち文化大革命の名の下に毛沢東によつて行われた文化虐殺の政治的暴力革命に反対する声明は、今も生きてゐるのです。〔註〕習近平といふ今の中国共産党の首領が毛沢東を尊敬してゐるなどといふことの意味を、自分の日常生活の貧しさとともによく考へてみるべきことです。

なぜ、今世界といふ世間を騒がせてゐる極左・暴力集団が近代国家の鬼子であるアメリカの複数の都市で暴力沙汰を起こしてゐるか、何故男性と女性といふ性差によつて成立する私的な尊い性愛の世界に法律を持ち込むで、同じ集団が二つの異なる範疇のものを悪意を以つて混同させようとしてゐるか、この意図的な範疇の混同が何故都市で起きるのかをよく考へてみるのが大切です。

この場合、私のいふ都市とは東京や大阪のやうな大都市のみをいふのではなく、地方自治体の都市をも含んでいふのです。むしろ、極左・共産主義者たちの本を読むと、これら悪事をなす人間たちの標的は田舎の都市、むしろ町といふべきでせうが、ここにもあることは明らかですので、大都市での騒擾も、例のごとくの red hering 作戦（赤い鰯作戦）、陽動作戦、偽旗作戦であるといふ可能性は払拭できません。中国の古代からの格言である「將を射んとせばまづ馬を射よ」といふ作戦で攻撃して来るので、私はこれを射將射馬作戦と呼んでゐますが（例：政治家の秘書に中国のスパイを送り込む他）、ここで偽旗などといふと、もはやまた此の論は冒頭に戻つて、情報の真贋の識別・判別・判定の話に戻ります。結局、あなたの人生観が試されてゐるのです。即ち、あなた自身の間観と道徳観が試されてゐるのです。そして、もはやそれらが通俗的になり大衆化してゐると判断したら、即座に捨て去るべき勇気を持つべき時代なのです。何故なら、このあなたの判断には大衆はゐないからです。あなたは自分で自分自身の道徳を創造すべき時だと私は思ふ。

何度考へても、平成元年・1989年4月に起きた天安門事件の後に、天皇陛下が北京を訪問したことは、日本の政治の大きな、取り返しのつかない失敗でした。私は、このことに関する職業的な政治家の反省の弁を聴きたい。何故反省の弁でなければならないか。何故なら、天皇陛下訪中が原因となつた実害は、如何なる意義に於いても残虐に人の命を奪ひ、現に奪ひいつつあることは、今や世界中に明らかであるからです。

〔註〕

昭和42（1967）年2月28日、「文化大革命に関する声明」を發表しました。発

表の媒体への掲載は翌日で、媒体は東京新聞です。当時は今と違って東京新聞は、都新聞の伝統と歴史を守って正気であつたのです。

“ 昨今の中国における文化大革命は、本質的には政治革命である。百家争鳴の時代から今日にいたる変遷の間に、時々刻々に変貌する政治権力の恣意によって学問芸術の自律性が犯されたことは、隣邦にあって文筆に携はる者として、座視するには忍ばざるものがある。

この政治革命の現象にとらはれて、芸術家としての態度決定を故意に保留するが如きは、われわれのところでない。われわれは左右いづれのイデオロギー的立場をも超えて、ここに学問芸術の自由の圧殺に抗議し、中国の学問芸術が（その古典研究をも含めて）本来の自律性を恢復するためのあらゆる努力に対して、支持を表明するものである。

われわれは、学問芸術の原理を、いかなる形態、いかなる種類の政治権力とも異範疇のものとみなすことを、ここに改めて確認し、あらゆる「文学報国」的思想、またはこれと異形同質なるいはゆる「政治と文学」理論、すなはち、学問芸術を終局的には政治権力の具とするが如き思考方法に一致して反対する。

翌3月1日付「東京新聞」掲載。（『三島由紀夫決定版全集36巻』新潮社、p.477）”

縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く

(16)

岩田英哉

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかゐらないのか？

2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

3. 五十音表を記号化する

4. 日本人の言語宇宙

5. 古事記の宇宙観

5.1 高天原とは何か1

5.2 カミとは何か1

5.3 高天原とは何か2

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.6 天照大神とは何か

5.7 月読命とは何か

5.7.1 月とは何か

5.7.2 月読命とは何か

5.7.3 月読神社とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.7.8 習合とは何か

5.8 カタカナとひらかなの関係

青字は既論の章、赤字は今回論ず
る章、黒字はこれから論じる章

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか

5.9 日本位相習合史

5.1.0 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.1.1 かごめかごめの歌は一体何を歌つてゐるのか

5.1.2 縄文土偶とは一体何か

5.1.3 習合といふ漢意をやまとこころで何といふのか

5.1.3.1 位相史のための紀元の種類

5.1.3.2 淤能基呂島とは何か

5.1.5 縄文土器とは何か

5.1.6 大祓へを読み解く

5.1.6.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

5.1.6.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

5.1.6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の種類と大祓

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか

5.1.6.4 八の音義は何を意味するか

5.1.6.5 誰が「しろし召す」誰が「聞こし召す」のか

5.1.7 紫式部の超越論『源氏物語』

5.1.8 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.1.9 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.2.0 日本人はどこから来たか

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか (4)

5.1 6.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

5.1 7 紫式部の超越論『源氏物語』

5.1 8 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.1 9 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.2 0 日本人はどこから来たか

目次

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか

- A 箱根神社の三柱の御祭神の名前
- B それでは、瓊瓊杵尊は一体どこから天下つて来たのか
- C 最初の瓊瓊杵尊は、何処からミコトを持ち運んで来たのか
- D 何故日本の国は古事記と日本書紀といふ二種類の書物を必要としたのか
- E カミとミコトとヒトの違いと同じであることについて
- F 国学とLiberal Artsの統一と普遍学 [universal science] としての日本学 [Japanology] の成立
- G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さ (90万年) は何を意味するか
- H 古代の天皇の寿命の長さは何を意味するのか
- I 国学の超越論：賀茂真淵と本居宣長の超越論
- J 道元禅師の超越論
- K 親鸞聖人の超越論
- L 八岐大蛇とは何か
- M カミとは何か再説
- N シロシ・召すとキコシ・召す再説
- O 大祓に書かれてゐる場所はどこのような場所であるか
- P 日本語の音義とひらかな・カタカナ・漢字の関係
- Q 国学言語論と欧米言語学の関係

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか (5)



Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界シリーズ」

(12)

扇

岩田英哉

あふぐなら いぶきどのかみ ゐたちなむ たれもかれもが みなかみがゆゑ



編集後記

●巻頭詩（19）二十億光年の孤独：谷川俊太郎：高校生の時の現代国語の教科書で読んで印象のある谷川俊太郎を有名にした詩です。今読んでも初々しさのある詩です。この詩人は谷川徹三といふ哲学者の息子さんで、父親の谷川徹三のエッセイも現代国語の教科書に載ってゐて、そのエッセイの最後の一行「流行は終はつたところから始まる。」は、今に至るも味はひ深い一行となつてゐます。谷川家の父子にお世話になつたことになります。

●周辺飛行（43）：3。『周辺飛行』について（21）：周辺飛行41：五月のスタジオ公演：段々と安部公房とリルケの詩を安部公房スタジオの作劇及び演技指導論の関係が明らかになつて来て、ありがたいことです。

●二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（13）：安部公房の塔と倉橋由美子の塔（3）：4。倉橋由美子の小説観『反小説論』：なるほど、これが倉橋由美子の小説観かと納得しながらの執筆でした。やはりこの作家も二十一世紀に尚命脈尽きぬ生きた作家です。安部公房にこんな似てゐる作家だつたとは思ひもかけない発見でした。恐らく上京する前の高校生時代以前から相当な読書家で、早熟な、そして論理性の高い文学少女であつたのだと推測します。理解されむと思ふ心の徒桜、我を知るのは数百年のちか。といふやうな気概を、その辛辣な筆捌きから感じます。とにかく、理解されたいとか、受け入れられたいとかといふやうな考へからは理解のできない作家です。文壇なるものは相手にしてゐなかつたところも安部公房らしさです。

●糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号

●ネット・モナド論（18）：ネット大衆と情報の真贋：やはりこれを書かねばならなかつたのは、あなたや私が如何に大衆の一人とならずに、この大衆化といふアメリカ発の勢力に対抗して独立した人間になるかといふことがモナドをネット上で論ずるためには必要であつたからです。

●縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（16）：5.16.4 八の音義は何を意味するか（4）：K 親鸞聖人の超越論：待て次号：場合によつては取りやめるつもりです。なにしろ一冊の本になつてしまひますので。

●Topologyで日本の文化を解説する「内なる辺境シリーズ（12）：扇：まて次号：今月も次号に送つたのは、明らかに私の怠惰です。形象論としての扇は、縄文紀元論のお陰で書くことができるやうになつたからです。

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館
「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。